

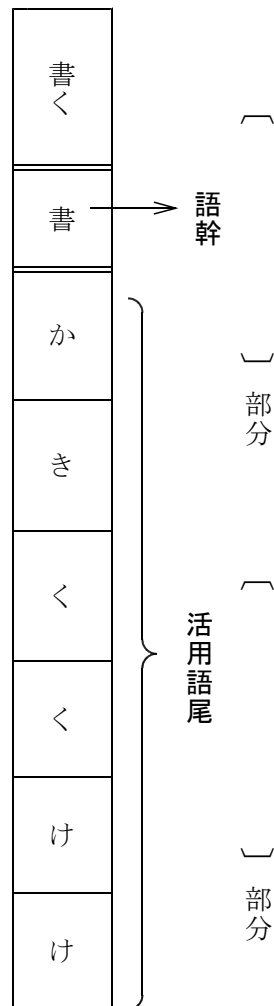
4	3	2	1
敬語	助詞	助動詞	用言

〈用言と体言〉

用言… 〔 〕 語で述語になる…動詞、形容詞、形容動詞

体言… 〔 〕 語で主語になる…名詞

〈語幹と活用語尾〉



〈活用形〉… 〔 〕

〔 〕によって決まる

書く	
書	語幹
か	未然形
き	連用形
く	終止形
く	連体形
け	已然形
け	命令形

活用形	下につく語
未然形	ず
連用形	たり・て・用言（動詞・形容詞・形容動詞）
終止形	。
連体形	名詞
已然形	ども
命令形	！

第一講

〈動詞の活用の種類〉↓全部で「 」種類

覚える動詞		判断する動詞	
(1)	カ行変格活用	(7)	四段活用
(2)	サ行変格活用	(8)	上二段活用
(3)	ナ行変格活用	(9)	下二段活用
(4)	ラ行変格活用		
(5)	上一段活用		
(6)	下一段活用		

覚える動詞

・活用形

「 」

「 」

を覚える

(1) カ行変格活用

来	語幹	こ	未然形	き	連用形	く	終止形	くる	連体形	くれ	已然形	こ(よ)	命令形
---	----	---	-----	---	-----	---	-----	----	-----	----	-----	------	-----

所属する動詞「 」

(2) サ行変格活用

す	語幹	せ	未然形	し	連用形	す	終止形	する	連体形	すれ	已然形	せよ	命令形
---	----	---	-----	---	-----	---	-----	----	-----	----	-----	----	-----

所属する動詞「 」

※「念ず」「愛す」「奏す」「啓す」などのように音読みに接続するものはサ変動詞

※「勤行す」「 」など名詞に「す」が接続して動詞化するものもサ変動詞

(6) 下一段活用

蹴る	
○	語幹
け	未然形
け	連用形
ける	終止形
ける	連体形
けれ	已然形
けよ	命令形

所属する動詞 ― 〔 〕

(5) 上一段活用

見る	
○	語幹
み	未然形
み	連用形
みる	終止形
みる	連体形
みれ	已然形
みよ	命令形

所属する動詞

ハ行…	カ行…	マ行…
〔 〕	〔 〕	〔 〕
ヤ行…	ナ行…	ワ行…
〔 〕	〔 〕	〔 〕
〔 〕	〔 〕	〔 〕

(4) ラ行変格活用

あり	
あ	語幹
ら	未然形
り	連用形
り	終止形
る	連体形
れ	已然形
れ	命令形

所属する動詞 ― 〔 〕

(3) ナ行変格活用

死ぬ	
死	語幹
な	未然形
に	連用形
ぬ	終止形
ぬる	連体形
ぬれ	已然形
ね	命令形

所属する動詞 ― 〔 〕

判断する動詞

- ・活用のパターンを覚える
- ・「〔 〕」（ない）をつけて判断する

「ず」をつけた時に未然形が

ア段…	〔 〕	活用例）書く
イ段…	〔 〕	活用例）過ぐ
エ段…	〔 〕	活用例）受く

(7) 四段活用

書く	
書	語幹
か	未然形
き	連用形
く	終止形
く	連体形
け	已然形
け	命令形

(8) 上二段活用

過ぐ	
過	語幹
ぎ	未然形
ぎ	連用形
ぐ	終止形
ぐる	連体形
ぐれ	已然形
ぎよ	命令形

※注意すべき上二段動詞「老ゆ」「悔ゆ」「報ゆ」（ヤ行）

(9) 下二段活用

受く	
受	語幹
け	未然形
け	連用形
く	終止形
くる	連体形
くれ	已然形
けよ	命令形

※注意すべき下二段動詞

「植う」「飢う」「据う」（ワ行）  
「得」「経」「寝」（語幹がない）

活用のパターン

〔四段〕	ア／イ／ウ／ウ／エ／エ
〔上二段〕	イ／イ／ウ／ウ／ウれ／イよ
〔下二段〕	エ／エ／ウ／ウ／ウれ／エよ

〈動詞の活用が行〉

ワ行	ヤ行	ア行
わ	や	あ
		い
	ゆ	う
		え
を	よ	お

… 「 のみ

〈注意が必要な動詞〉

◎ヤ行上二段活用

老ゆ	語幹
老	未然形
	連用形
	終止形
	連体形
	已然形
	命令形

※「悔ゆ」「報ゆ」も同じ

◎ワ行下二段活用

植う	語幹
植	未然形
	連用形
	終止形
	連体形
	已然形
	命令形

※「飢う」「据う」も同じ

◎語幹のない下二段活用動詞

③ 寝	② 経	① 得	語幹
○	○	○	未然形
			連用形
			終止形
			連体形
			已然形
			命令形

第二講

〈形容詞の活用〉：ク活用とシク活用があり、「くくなる」をつけると判断できる

(例) 「をかし」↓「をかしくなる」：シク活用

「寒し」↓「寒くなる」：ク活用

ク活用 寒し	語幹 寒	未然	連用	終止	連体	已然	命令
シク活用 をかし	をか			○		○	○

※ は下に 「 」 が来る

例題 次の形容詞の活用の種類を答えよ。

(1) はかなし 「 」 活用

(2) わびし 「 」 活用

(3) いみじ 「 」 活用

〈形容動詞の活用〉：入試で出題されるのはほぼナリ活用

ナリ活用 静かなり	語幹 静か	未然	連用	終止	連体	已然	命令
タリ活用 堂々たり	堂々	たら	と たり	たり	たる	たれ	たれ

※ は下に 「 」 が来る

〈係り結び〉…文中に係助詞がある時は、文末の形が終止形でなくなる

例) 男、す。↓男ぞ、す。  
(終止形) (連体形)

例) 女、す。↓女こそ、す。  
(終止形) (已然形)

係助詞					意味		結びの語(文末の形)	
こそ	なむ	ぞ	か	や				

※疑問か反語かは文脈判断

※「やは」「かは」の形ときは基本的に「          」

※強意の係り結びは訳さなくてよい

例題

「          」内の語を適当な形に活用させよ。

(1) その北の方なむなにがしが妹に「侍り」。

(2) をりふしの移り変はるこそ、ものごと「あはれなり」。

--	--

第二講

〈助動詞のポイント〉

- (1) 〔活用〕 する
- (2) 〔意味〕 がある
- (3) 〔 〕 〔 (その助動詞の直前が何形か) が決まっている

★助動詞「き」

(1) 活用

き	未然形
	連用形
	終止形
	連体形
	已然形
	命令形

(2) 意味… 〔 (直接経験) 〕

(3) 接続… 〔 〕 形

★助動詞「けり」

(1) 活用

けり	未然形
けら	連用形
○	終止形
けり	連体形
ける	已然形
けれ	命令形

(2) 意味… ① 〔 (間接経験) 〕

② 〔 〕 【訳】

※ 〔 中の「けり」は②の意味になる

例) 逢ひ見てののちの心にくらぶれば昔はものを思はざりけり

(3) 接続… 〔 〕 形



例題

次の傍線部のうち一つだけ文法的用法の異なるものがある。それを選べ。

- (1) 貧しければするわざもなかりけり。
- (2) 財宝はなけれどもさすがに空倉はあまたありけり。
- (3) この児、あはれ食はばや食はばやと思ひけるに、
- (4) 思はむ子を法師になしたらむこそ心ぐるしけれ。
- (5) ふるさとなりにし平城の都にも色はかはらず花は咲きけり

★助動詞「ず」

(1) 活用

ず		未然形
		連用形
	○	終止形
		連体形
		已然形
	○	命令形

↓直後は

(2) 意味… [ ]

(3) 接続… [ ] 形

★助動詞「つ」「ぬ」

(1) 活用

ぬ	つ	未然形
		連用形
		終止形
		連体形
		已然形
		命令形

(2) 意味… ① [ ]

② [ ]

※直後に [ ] の助動詞がある時は、②の意味になり、

[ ] と訳す

例) 女兒のためには、親おさなくなりぬべし。  
この僧の顔に似てむ。

(3) 接続… [ ] 形

ぬ	ず		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	意味
					○			○	

判断方法

① 「」で判断する

「」 接続… 【 例）とく参らぬ限りは、

「」 接続… 【 例）とく参りぬ。

② ①で判断できない時は「」で判断する

「ぬ」が「」 「、」「ね」が「」 「…」

「ぬ」が「」 「、」「ね」が「」 「…」

注意

「」に注意

文中に係助詞「ぞ・なむ・や・か」がある…文末は「」形  
 文中に係助詞「こそ」がある…文末は「」形

例) おもしろき歌などもなむ 覚えぬ。

注意

「」に注意

ナ行変格活用動詞 【 】【 】【 】【  
 ナ行下二段動詞 【 】【

※ひらがな表記の時に注意

★助動詞「たり」「り」

(1) 活用

り	たり	
	たら	未然形
	たり	連用形
	たり	終止形
	たる	連体形
	たれ	已然形
	たれ	命令形

(2) 意味… ①

「」… 動作の完了を表す

②

「」… 状態の存続を表す

(3) 接続…「たり」—「」形

「り」—「」

「」

「」形 「」形

★助動詞「る」「らる」

(1) 活用

らる	る	
られ		未然形
られ		連用形
らる		終止形
らるる		連体形
らるれ		已然形
られよ		命令形

(2) 意味

① 「」… 「る」(by) にあたる語がある

例) 寝たる足を狐に食はる。

② 「」… 「」の語を伴う

例) つゆ寝られず。

**判断方法**

A [ ] … [ ] で判断する [ ] 接続

B [ ] … [ ] … [ ] … [ ] … [ ] 接続

例) 花咲ける春

例) おもしろく造られたるに、

---

Bのときは、**意味識別が必要**

B	A	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
る	り						

▽「る」「れ」の識別

③ [ ] … [ ] … [ ] … [ ] に接続  
 例) 住み慣れし故郷、限りなく思ひ出でらる。

※知覚動詞とは…「見る」「聞く」など人間の五感の感覚を表わす動詞  
 ※心情動詞とは…「思ふ」「泣く」「しのぶ」など心情を表わす動詞

④ [ ] …①〜③以外の時で、主語が高位の時  
 例) 大納言、「不思議のことなり」と言はる。

※「仰せらる」「らる」は絶対至尊敬  
 ※「くれ給ふ、くられ給ふ」の「れ・られ」は、**絶対至尊敬にならない**

(3) 接続… [ ] … [ ] 形  
 「らる」…それ以外の動詞に接続する [ ] … [ ] … [ ] … [ ] … [ ] 動詞に接続する

★助動詞「す」「さす」「しむ」

(1) 活用

しむ	さす	す		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
しめ	させ								
しめ	させ								
しむ	さす								
しむる	さする								
しむれ	さすれ								
しめよ	させよ								

(2) 意味… ①

〔 〕

②

〔 〕

〔助動詞「す」「さす」「しむ」の意味識別〕

A 直後に

〔

〔が  
ある… Bへ  
ない…

〕

例1) 翁にあづけて養はず。

〔

〕

B

〔

〔が  
ある…  
ない…

〔

〕

例2) 帝、聞し召して笑はせ給ふ。

〔

〕

例3) 帝、紀有常らを召して、歌詠ませ給ふ。

〔

〕

(3) 接続… 〔 〕形

「す」… 〔 〕 【・】 【・】 【動詞に接続する

「さす」… それ以外の動詞に接続する

「しむ」… 全ての動詞に接続する (漢文の書き下し文で使われることが多い)

★助動詞「む」「むず」

(1) 活用

むず	む	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

(2) 意味：③以外は文脈判断

① 「」 …… 基本の意味

例) 少納言よ、香炉峰の雪はいかならむ。

※例文のように「」を伴う場合は①の意味になる

② 「」 …… 主語が「」の時

例) われ、東の方に住むべき所求め行かむ。

※②の用法が入試で最頻出！

③ 「」 …… 「む」「むず」の直後が「」の時

…「む」「むず」の直後が「」の時

※婉曲の「む」は「くような」と訳し、物事を遠まわしに言う用法

例) 翁の申さむことを聞き給へ。(翁の言うようなことをお聞き下さい)

※「む」の直後が「」の場合は**假定**、「」の場合は**婉曲**

例) 思はむ子を法師になしたらむこそ、いと心づきなけれ。

(大切に思っているような子を法師にしたら、たいそう心苦しいことだ)

④ 「」 …… 文脈判断

例) 子というものなくてありなむ。(子どもというものはないほうがよい)

(3) 接続…「」形

★助動詞「じ」

(1) 活用

じ	
○	未然形
○	連用形
じ	終止形
じ	連体形
じ	已然形
○	命令形

(2) 意味…助動詞「む」の打消版

① 「」例) いくさに負けることはよもあらじ。

② 「」例) われはよめとも言はじ。

※①と②の識別は助動詞「む」と同じ

(3) 接続… 「」形



★助動詞「らむ」「けむ」

(1) 活用

		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
けむ	らむ	○	○	けむ	らむ	けめ	○

(2) 意味

「らむ」…「」 「けむ」…「」

※「らむ」は婉曲「〜(である) ような」という訳や、原因推量「〜(なのは)〜であるからだろう」という意味もある。

※「けむ」は婉曲「〜(であった) ような」という訳や、原因推量「〜(なのは)〜であったからだろう」という意味もある。

(3) 接続

「らむ」…「」 「形 (ただしラ変型活用語には) 「形接続」

※ラ変型活用語…「」 「」 「」 「」 「」 「」

助動詞【】 【たり】 【り】 【なり】 【べし】 【まし】

「けむ」…「」 「形

例題 次の「らむ」と文法上の性質を同じくするものを後の①〜⑤より一つ選べ。

すべて心に知れらむことをも知らず顔にもてなす。

- ① 駒並めていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらむ
- ② 事よろしく侍らん一つ召して給はらん。
- ③ さやうの事もなか承らざらん。
- ④ かう時雨に濡れてはしも参り給へらむ
- ⑤ 人はかたち有様のすぐれたらむこそあらまほしけれ。

★助動詞「べし」「まじ」

(1) 活用

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
べし	べく	べく	べし	べき	べけれ	○
まじ	まじく	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○
	べから	べかり	○	べかる	○	○

(2) 意味

	「べし」の用法	意味	「まじ」の用法	意味
① 推量	くだろう		① 打消推量	くだいだろう
② 意志	く(し)よう		② 打消意志	くまい
③ 可能	くできる		③ 不可能	くできない
④ 当然	くべき、くはずの		④ 打消当然	くべきではない
⑤ 命令	くしろ		⑤ 禁止	くてはならない
⑥ 適当	くのがよい		⑥ 打消適当	くはないほうがよい

※「まじ」は「べし」を打ち消したものの

※助動詞「べし」「まじ」の意味識別は基本的には文脈判断

※文法的な用法より現代語訳出で問われることが多い

(3) 接続: 「 」 形

ただしラ変型活用語には 「 」 形接続

※ラ変型活用語: 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」

助動詞 【 】 【たり】 【り】 【なり】



▽「なり」の識別

判断方法		「」で判断する
A	「 …… 」	接続（ただしラ変型活用語には「 …… 」接続）
B	「 …… 」	【例】男もすなる日記といふものを、 「 …… 」接続
C	用言の「 …… 」、格助詞「 …… 」に接続	【例】女もしてみむとてするなり。
D	A～C以外	【例】その形だになくなりぬるぞ悲しき。

※ 「 …… 」に接続する場合はD

※ ただし、「あはれなり」のように重要単語として覚えておかなければならないものも多い。

例題 次の(1)～(8)の傍線部を文法的に説明せよ。

- (1) 六条判官為義といひし者の孫**なり**。
- (2) 妹恋しく**なり**にき。
- (3) やはらかなる瓜一つ取りて、食はんとしける時、
- (4) 河内へも行かず**なり**にけり。
- (5) 日も暮れ方になりぬ**なり**。
- (6) すがすがともえ参らせ奉り給はぬ**なり**けり。
- (7) 雀こそいたく鳴くな**れ**。ありし雀の来るにやあらん。
- (8) 人をして呼ばすれど、答えざ**なり**。

注意

直前が連体形か終止形か、判断できないとき

例) 夕されば野辺の秋風身にしみて鶉鳴くなり深草の里

↓「 」や「 」に関する表記があれば**伝聞推定の助動詞**

注意

撥音便とその無表記形の直後は「 」の助動詞

もとの形

撥音便

撥音便無表記形

あるなり (めり) ↓ あんなり (めり) ↓ あなり (めり)

なるなり (めり) ↓ なんなり (めり) ↓ ななり (めり)

ざるなり (めり) ↓ ざんなり (めり) ↓ ざなり (めり)

ゝかるなり (めり) ↓ っかんなり (めり) ↓ っかなり (めり)

★助動詞「まし」

(1) 活用

まし	未然形	ましかまし	連用形	まし	終止形	まし	連体形	ましか	已然形	○	命令形
----	-----	-------	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	---	-----

(2) 意味

① 「」

【訳】

例) これほどの詩を作りたらましかば、名をあげてまし。

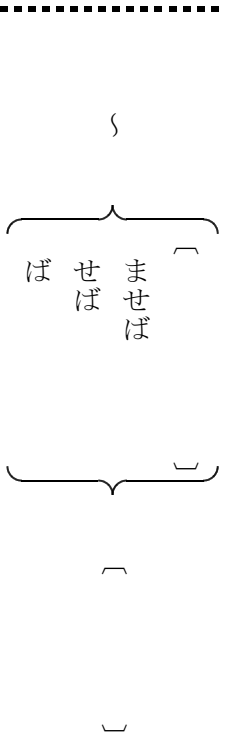
② 「」

【訳】

例) これになにを書かまし。

※「まし」の意味識別

① 「」 になるときは、次の構文の形をとる



② 「」 になるときは 「」 を伴う

(3) 接続: 「」 「」 形

例題 傍線部の文法的用法(意味)を、後の選択肢から選べ。

(1) 鏡に色、形あらましかば、映らざらまし。 「」 「」

(2) なほこれより深き山を求めてや跡絶えなまし。 「」 「」

(3) いつはりのなき世なりせばいかばかり人の言の葉うれしからまし 「」 「」

ア 反実仮想      イ ためらいの意志

★助動詞「まほし」

(1) 活用

まほし		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	まほしく	まほしかり	まほし	まほしき	まほしけれ	まほしかれ	
まほしから	まほしかり	○	まほしかる	○	○	○	

※カリ活用は下に「」がつく時に用いる

(2) 意味… 「」 【訳】

(3) 接続… 「」形

第十一講

〈助詞の全体像〉

① 格助詞	単語と単語をつなぐ
② 接続助詞	文と文をつなぐ
③ 副助詞	意味を加える
④ 係助詞	
⑤ 終助詞	

格助詞 … 「

」 働きをする助詞

▼格助詞「の」(=「が」)

用法	A 「 」	B 連体修飾格	C 準体格	D 「 」
	<p>主語になる。「が」と訳す。</p> <p>例) 雨の<sup>レ</sup>かきくらし降りたる。</p> <p>【雨があたり一面暗くして降っている。】</p>	<p>現代語の「の」と同じ。「の」と訳す。</p> <p>例) 風の<sup>レ</sup>音、虫の<sup>レ</sup>声など、はたいふべきにあらず。</p> <p>【風の音、虫の音などは、また(趣があることは)言うまでもない。】</p> <p>下に名詞が省略されている。「の(名詞)」と訳す</p>	<p>例) いかなれば、四条大納言の<sup>レ</sup>はめでたく、兼久が<sup>レ</sup>はわるかるべきぞ。</p> <p>【どうして、四条大納言のもの(歌)はすばらしくて、兼久のもの(歌)はよくないのか。】</p>	<p>「の」の前後が同じものを指す。「で」と訳す。</p> <p>☆「の」が同格になるときは</p> <p>①「の」の直前が名詞</p> <p>②「の」の下に連体形がある。</p> <p>③「 」</p> <p>例) 大きな柑子の木の<sup>レ</sup>、枝もたわわになりたるが、</p> <p>【大きな柑子の木で、枝も折れそうなくらい柑子がたわわに実っている木が】</p>



用法	
A 起点	<p>時間や場所の出発点を表す。「〜から」と訳す。</p> <p>例) 大津より浦戸をさして漕ぎ出づ。</p> <p>【大津から浦戸の港を目指して漕ぎ出す。】</p>
B 経由	<p>通過する地点を表す。「〜を通って」と訳す。</p> <p>例) 前より行く水を初瀬川といふなりけり。</p> <p>【前を通して流れる水を初瀬川というのであった。】</p>
C 比較	<p>比較の基準を表す。「〜より」と訳す。</p> <p>例) 我よりも貧しき人の父母は飢ゑ寒ゆらむ。</p> <p>【私よりも貧しい人の父母は、飢えてこごえているだろう。】</p>
D 理由	<p>物事の原因や理由を表す。「〜のせいで、〜のために」と訳す。</p> <p>例) 病を受くる事も、多くは心より受く。</p> <p>【病気にかかることも多くは心のためにそうになっている。】</p>
E 手段・方法	<p>主に移動の手段、方法を表す。「〜で」と訳す。</p> <p>例) 山背道を他夫の馬より行くに</p> <p>【山城へ行く道をよその夫は馬で行くのに】</p>
F 限定	<p>打消表現を伴って「〜」と訳す。</p> <p>例) ひぐらしの鳴く山里の夕暮れは風よりほかにとふ人もなし</p> <p>【ひぐらしの鳴くこの山里の夕暮れは、風以外に訪れる人もないことだ。】</p>
G 即時	<p>動詞の連体形に接続し、「〜」と訳す。</p> <p>例) 名を聞くより、やがて面影はおしはからる心地するを、</p> <p>【名前を聞くやいなやすぐさまその人の顔かたちは推し量られる気がするのに】</p>

▼格助詞「より」

E 連用修飾格	<p>比較。「〜のように」と訳す。「が」にはない用法。</p> <p>例) あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む</p> <p>【山鳥の尾の垂れ下がった長い尾のように、長い夜を私は一人で寝ることになるのだなあ。】</p> <p>※左記例文のように和歌の序詞（じよことば）で用いられることが多い</p> <p>※「例の」（いつものように）の「の」も連用修飾格</p>
---------	---

# 第十二講

接続助詞

「ば」

「働きのする助詞」

▼接続助詞「ば」

接続	用法
「 」形	「 ならば」と訳す 例) もし心になはぬことあら <b>ば</b> やすく外へ移さむがためなり。 【もし気に入らないことがあ <b>つたら</b> 、簡単に他に移せるようにするためである。】
「 」形	「 ので」と訳す。 例) 大江山生野の道の遠ければ <b>ば</b> まだふみもみず天の橋立 【大江山へ行く生野の道が遠い <b>ので</b> 、まだ踏み入れておりません、天の橋立へは。】
「 」形	偶然条件 「 すると、 したところ」と訳す 例) 見わたせば <b>ば</b> 花も紅葉もなかりけり浦の苦屋の秋の夕暮れ 【見渡すと花も紅葉もないことだ、海辺の粗末な家の近くの秋の夕暮れは。】
「 」形	恒常条件 「 するといつも」と訳す。 例) 財あれば <b>ば</b> おそれ多く、貧しければ <b>ば</b> 恨み切なり。 【財産がある <b>といつも</b> 心配が多いし、貧しいとその恨みは切実である。】

例題 傍線部の「ば」の用法を答えよ。

(1) 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず

(2) 春まで命あらば、必ず来む。

(3) 山里の春の夕暮れ来てみればいりあひの鐘に花ぞ散りける

(4) 命多ければ、恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なむこそめやすかるべけれ。

ア 仮定条件 「もし〜ならば」

イ 原因・理由 「〜ので」

ウ 偶然条件 「〜と・〜たところ」

エ 恒常条件 「〜と・〜といつも」

体言 連用形	接続
③	用法
②	同時並行
①	同時並行
<p>例) 明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしく朝ぼらけかな</p> <p>【夜が明けてしまうと、日が暮れるものだと知っているけれど、やはり恨めしく思われる夜明けであることよ。】</p>	<p>「〜が、けれども」と訳す</p>
<p>例) 守は馬に乗りながら落ち入りぬ。</p> <p>【守は馬に乗ったままで逆さまに落ちてしまった。】</p>	<p>「〜のままで」「〜の状態で」と訳す</p>
<p>例) 笛を吹きながら見かへりたる気色</p> <p>【笛を吹きながら振り返った様子】</p>	<p>「〜しながら」と訳す</p>

▼接続助詞「ながら」

連体形	接続
③	用法
②	用法
①	用法
<p>例) 明日は物忌みなるを、門強くさせよ。</p> <p>【明日は物忌みなので、門を強く閉めさせなさい。】</p>	<p>「〜する」と「〜ところ」「〜が」と訳す</p>
<p>例) あやしがりて見るに筒の中光たり。</p> <p>【不思議に思ってたところ、筒の中が光っていた。】</p>	<p>「〜が、〜けれども、〜のに」と訳す</p>
<p>例) つごもりなるに、紅葉散らで盛りなり。</p> <p>【(もう陰暦十月も) 末日なのに、紅葉は散らないで盛りである。】</p>	<p>「〜ので」と訳す</p>

▼接続助詞「を」「に」

「て」「で」	接続
「に」	用法
「を」	単純接続
「を」「に」形	単純接続
「を」「に」形	打消接続
<p>例) 等身に薬師仏を造りて、手洗ひなどして、</p> <p>【等身大の薬師如来像を作って、手を洗い清めたりして、】</p>	<p>「〜して」と訳す</p>
<p>例) つごもりなるに、紅葉散らで盛りなり。</p> <p>【(もう陰暦十月も) 末日なのに、紅葉は散らないで盛りである。】</p>	<p>「〜ないで」と訳す</p>

▼接続助詞「て」「で」

助詞	接続	
ど ども もの ものを ものから ものゆゑ	「 」 形  連体形	「 」 「 」 と訳す。 例) 文を書きてやれども返りごともせず。 【手紙を書いて送るけれども、返事もしない。】 「 」が、「 」けれども「 」と訳す。 例) いまだ夜は明けぬものから、雪に白みたる内野の景気 【まだ夜はあけないけれども、雪あかりで白々としている内野の様子】 「たとえくだとしても」と訳す。
と とも	終止形 (形容詞には 連用形)	例) 長くとも四十に足らずで死なむこそ、めやすかるべけれ。 【たとえ長くても四十歳くらいで死んでいくようなのが見苦しくないだろう。】

▼逆接をあらわす接続助詞

副助詞

… 「 にあって、 」

「 働きをする助詞

▼副助詞「だに」「すら」

用法	
A 程度の類推	<p>(訳)</p> <p>例) 光やあると見るに、蛍ばかりの光だになし。            【光があるかと見てみるが、蛍ほどの光さえない。】</p>
B 最小限の希望	<p>(訳)</p> <p>例) 我に今ひとたび、声をだに聞かせ給へ。            【私にもう一度せめて声だけでもお聞かせください。】</p> <p>※ 「だに」を最小限の希望で訳すときは下に            「 」 「 」 「 」 「 」 「 」            の表現がくる</p>

例題 次の傍線部の「だに」の意味として正しいものを、ア・イより選べ。

- (1) 今日だに言ひがたし。まして後はいかならむ。
  - (2) 散りぬとも香だに残せ梅の花恋しき時の思ひ出にせむ
  - (3) この願だに成就しなば、悲しむべきにあらず。
- ア 「〜でさえ」      イ 「せめて〜だけでも」

▼副助詞「せむ」

用法	
添加	<p>(訳)</p> <p>例) いどもの悲しと思ふに、時雨さへうちこそそく。            【大変心細いと思うところに、時雨までも降ってきた。】</p>

▼副助詞「し」

用法	
	<p>(訳)</p> <p>例) 春雨の降るは涙か桜花散るを惜しまぬ人<sup>し</sup>なければ          【春雨が降るのは人が涙を流しているのだろうか。桜の花が散るのを惜しまない人はいないのだから。】</p> <p>※訳出する必要はない</p> <p>※副助詞「し」はなくても文意が通じる</p> <p>※下に強意の係助詞「も」「ぞ」がついて、「し<sup>も</sup>」「し<sup>ぞ</sup>」の形で用いられることも多い</p>

例題 次の傍線部の「し」の文法的説明として正しいものを、選択肢より選べ。

- (1) 戯れごととぞ、我は思ひ<sup>し</sup>。
- (2) 山に籠りて、行ひなど<sup>し</sup>けり。
- (3) いつ来むとおぼつかなければ、月を<sup>し</sup>も見ず。
- (4) あるじ珍しく思ひて、もてな<sup>し</sup>けり。
- (5) 唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅を<sup>し</sup>ぞ思ふ

--	--	--	--	--	--

- ア サ行変格活用動詞
- イ 動詞の活用語尾
- ウ 形容詞の一部
- エ 過去の助動詞「き」
- オ 強意の副助詞

# 第十四講

係助詞

： 「 」 にあって 「 」 を起こし、 「 」

「 」 働きをする助詞

係助詞	意味
ぞ	A (訳) は不要 例) 折節の移り変はるはるこそ、物ごとにあはれなれ。 【季節が移り変わるのは、何事についても趣がある。】
なむ	B (訳) は不要 例) 「いかやうにかある」と問ひ聞こえさせ給へば、 【「どんな様子であるか」とお尋ね申し上げなさんと、】
こそ	C (訳) は不要 例) この君よりほかに、まさるべき人やはある。 【この君より他に、優れているはずの人がいるだろうか、いやいやない。】 ※ 「やは」「かは」の形ときは反語になることが多い

## ▼係り結びの法則(原則)

係助詞	結びの語(文末の活用形)
ぞ	「 」 形
なむ	「 」 形
や	「 」 形
か	「 」 形

係助詞	結びの語(文末の活用形)
こそ	「 」 形

## ▼係り結びの特殊な用法

(1)	「こそ…已然形、」の形で下に文が続いていく時 例) 中垣こそあれ、一つの家のやうなれば 【隣家との間に) 中垣はあるけれども、一つの家のようなので】
(2)	「もぞ」「もこそ」＝「懸念」(訳) 例) 雨もぞ降る。 【雨が降ると大変だ。】

終助詞	意味	
かし ぞ	〔 〕 〔 〕	<p>例) 月の色もひとときは、しみじみと見ゆる<b>ぞかし</b>。 【月の色もひとときわ、深く心にしみて見えるものだよ。】</p> <p>(訳)</p>
かな	〔 〕 〔 〕	<p>例) 遺恨のわがをしりける<b>かな</b>。 【残念な行いをしてしまったなあ。】</p> <p>(訳)</p>
そ	〔 〕 〔 〕	<p>例) をのこ、な騒ぎ<b>そ</b>。 【者ども、騒ぐな。】</p> <p>※「なそ」の形をとることが多い</p>

▼その他の終助詞

終助詞	接続	
にしが にしがな にしが てしが てしがな	連用形	<p>例) いかで鳥の声もせざらむ山にこもりに<b>にしがな</b>。 【なんとかして鳥の声もしないような山奥にこもってしまいたいもなあ。】</p>
もがな がな	さまざまな語に 接続	<p>例) あつばれ、よからう敵<b>がな</b>。 【ああ。よさそうな敵がいたらよいのに。】</p> <p>自己の願望を表す。(訳)</p>
なむ	〔 〕 〔 〕形	<p>例) いっしか梅咲<b>かなむ</b>。 【早く梅の花が咲いてほしい。】</p> <p>実現の難しい願望を表す。(訳)</p>
ばや	〔 〕 〔 〕形	<p>例) ほととぎすの声たづねに行か<b>ばや</b>。 【ほととぎすの声を探しに行きたい。】</p> <p>〔 〕を表す。(訳)</p>

▼願望の終助詞

終助詞 … 〔 〕にあって、〔 〕働きをする助詞



# 第十五講

▼ 「なむ」の識別

## 判断方法

「 」 で判断する

A 「 」 「 」 「 」 「 」 に接続する

… 「 」

例) 願はくは花の下にて春死なむ

B 「 」 「 」 接続(訳) 「 」 「 」

… 「 」 例) 梅の花、咲かなむ。

C 「 」 「 」 接続(訳) 「 」 「 」

… 「 」

例) いみじう髪も長くなりなむ。

### ※直前が未然形か連用形か、判断できないとき

例1) 馬より落ちなむ人の ↓ 「 」 は文中にこない ↓ 「 」 「 」

例2) 我、いつしか越えなむ。 ↓文末の場合は文脈判断 ↓ 「 」 「 」

D A～C以外で 「 」 「 」 「 」 に接続する

… 「 」

例) 身はいやしなから母なむ宮なりける

※例外的に連用形に接続する係助詞

形容詞

美しくなむ

なくなむ

形容動詞

静かになむ

あはれになむ

助動詞

行かずなむ

あるべくなむ

↓ 「～くなむ」「～になむ」「～ずなむ」の「なむ」は 「 」 「 」

例題

傍線部と同じ用法で用いられているものを、選択肢より一つ選べ。

人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとにうちも寝なむ

- ① かたはらを見ければ、文なむ見えける。
- ② 願はくは花の下にて春死なむその如月の望月のころ
- ③ さる所にては、身もいたづらになりなむ。
- ④ 立ち寄り訪ふべき人もなければ、あやしくおぼえずなむ。
- ⑤ 塩竈にいつか来にけむ朝なぎに釣する舟はここによらなむ

▼「に」の識別

## 判断方法

◎ 単語の一部であるもの

- ① 「        」 【例】我も死に、聖も失せなば
- ② 「        」 【例】いとあはれに侍りしことは、
- ③ 「        」 【例】さらにうけたまはらず。

◎ 助詞

- ④ 「        」 【例】君がため春の野に出でて若菜つむ  
 ※ 「        」に接続する
- ⑤ 「        」 【例】寄りて見るに、筒の中光りたり。  
 ※ 「        」に接続する

◎ 助動詞

- ⑥ 「        」 【例】これは童のしわざにこそありけれ。  
 ※ 「        」に接続する  
 ※下に「        」がある  
 (直後に「        」がある場合は省略されることがある)  
 例) その験にや、よみがへりたりき。
- ⑦ 「        」 【例】武蔵の国に行き着きにけり。  
 ※ 「        」に接続する  
 ※直後に助動詞「        」がある

例題

㉦・㉧の傍線部と同じ用法で用いられているものを、選択肢①～⑦より一つずつ選ぶ。

- ㉦ 真実に絶え入りにければ、まどひて願立てり。
- ㉧ いづこなりし几帳にかあらむ。
- ① 今のおきな、まさに死なむや。
- ② かかる折はあらじと袖のしづくさへあはれにめづらかなり。
- ③ ある人に誘はれ奉りて、明くるまで月見ありくことはべりしに、
- ④ その人、ほどなく失せにけりと聞きはべりし。
- ⑤ 死にたる妻の傍らにそひ臥して、
- ⑥ 琴の声ほのかに聞こゆるに、いみじううれしくなりて、
- ⑦ とどまるべきにもあらねば、やがて立ち給ひぬ。

第十七講

〔敬語法の出題ポイント〕

- ① 敬語の種類
- ② 敬語の訳
- ③ 敬意の方向（＝誰から誰への敬意か）

尊敬語

敬語動詞		元の動詞		訳	
おはす	あり・行く・来	いらつしやる			
おはします	あり・居り	いらつしやる			
いますがり	あり・居り	いらつしやる			
宣ふ	言ふ	おつしやる			
のたまはす	言ふ・命ず	おつしやる・お命じになる			
仰す	言ふ・命ず	おつしやる・お命じになる			
給ふ	与ふ	お与えになる			
たまはす	与ふ	お与えになる			
たぶ	与ふ	お与えになる			
思ふ	思ふ	お思いになる			
おぼしめす	思ふ	お思いになる			
御覧ず	見る	御覧になる			
きこしめす	聞く	お聞きになる			
あそばす	食ふ・飲む	召し上がる・お飲みになる			
大殿籠る	寝	なさる			
しろしめす	知る	おやすみになる			
召す	領る	知っていらつしやる、ご存じだ			
	呼ぶ	お治めになる			
	呼ぶ	お呼びになる			
奉る	食ふ・飲む	お召し上がる			
	乗る	お召しになる			
	着る	お召しになる			
参る	食ふ・飲む	お乗りになる			
	食ふ・飲む	召しあがる			

敬語動詞	元の動詞	訳
申す	言ふ	申し上げます
聞こゆ	言ふ	申し上げます
聞こえさす	言ふ	申し上げます
奏す …… ……	言ふ	(帝に) 申し上げます (中宮・東宮に) 申し上げます
奉る	与ふ	差し上げる
参らす	与ふ	差し上げる
賜はる	受く	いただく
参る	与ふ	差し上げる
まうづ	行く・来	参上する
まかる	行く・来	参上する
まかづ	出づ・行く	退出する・おいとまする
承る	聞く	お聞きする
侍り 候ふ	あり・居り	お仕えする、控える
つかうまつる	仕ふ す・行ふ	お仕えする し申し上げます

▼絶対敬語 …… 目的語が決まっている謙讓語

奏す—帝に申し上げます (帝に対する敬意を表す)

啓す—中宮・東宮に申し上げます (中宮・東宮に対する敬意を表す)

敬語動詞	元の動詞	訳
侍り 候ふ	あり	あります、います

〈誰から誰への敬意か〉

【誰からの敬意か …】

【 …】によって判断する

会話文	地の文
〔 〕	〔 〕
〔 からの敬意 〕	〔 からの敬意 〕

【誰への敬意か …】

【 …】によって判断する

丁寧語	謙譲語	尊敬語
会話文	地の文	〔 〕
〔 への敬意 〕	〔 への敬意 〕	〔 への敬意 〕

例題 傍線部の敬語動詞につき、誰から誰への敬意であるかを答えなさい。

(1) 大将、大夫に笙の笛などたまはせけり。

から	への敬意
----	------

(2) 惟喬の親王、例の狩りしにおはします供に、馬の頭なる翁つかうまつれり。

から	への敬意
----	------

(3) 大納言は帰りてこれを奏す。

から	への敬意
----	------

(4) 清海上人、「我がちと神官に承らばや。」と聞こゆ。

から	への敬意
----	------

(5) 「物語あまたさぶらひけり」と女房ども、女御に聞こえさす。

から	への敬意
----	------

(6) 中将、大殿よりまかでなむとし給ふ。

から

への敬意

〈本動詞と補助動詞〉

本動詞	動詞としての意味が「 」。 ※直前に動詞・助動詞が「 」。 例) 御直垂を押し出して給ひけり。「直垂を押し出して、下さった。」
補助動詞	動詞としての意味が「 」。 ※直前に動詞・助動詞が「 」。 例) 人目もつまず泣き給ひけり。「人目もはばからずお泣きになった。」

補助動詞一覧表

尊敬語	謙讓語	丁寧語
おはす おはします 給ふ(四段)	聞こゆ 聞こえさす 参らす 奉る 給ふ(下二段)(※)	侍り 候ふ
《訳》くなさる、おくになる くでいらっしやる	《訳》く申し上げる ※「くです、ます」とも訳す	《訳》くです、ます



第十八講

△二つの種類を持つ敬語動詞△

▼ 給ふ

尊敬語	本動詞	(訳) 「
	補助動詞	(訳) おくになる、くなさる
「給ふ」の活用形	(訳) 「	「
	※特徴	「 で用いられる
	③ 「	「 の敬意を表す

謙讓語		活用の種類		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
尊敬語									

※ 「」の形になった時だけ 「」による判断が必要

例題 傍線部の敬語動詞につき、その種類を答えなさい。

- (1) いといたくあはれがらせ給ふ。
- (2) 月ごろは思ひ給ふる事ありて、殿にも参らず。
- (3) 「高き本意かなへ給」となむ念じはべる。
- (4) 親、大臣の位をたもち給へりき。
- (5) もの思ひたまへ知らぬこちにも、いと忍びがたく侍り。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
-----	-----	-----	-----	-----

☆判断のポイント☆

① 「」の場合には丁寧語

② 目的語が「」であれば謙譲語

丁寧語	本動詞	(訳) 「」
補助動詞	(訳) ます	
「	(訳1) 主人や高貴な方に	「
「	(訳2) 主人や高貴な方の側に	「

▼ 侍り・候ふ

☆判断のポイント☆

① 「」の場合には謙譲語

② 「」・「」・「」・「」が

あれば尊敬語

③ ②の場合でも目的語が「」であれば謙譲語

例) 馬の頭、親王に御神酒奉る。

謙譲語	本動詞	(訳) 「」
補助動詞	(訳) 申し上げる	
「	(訳1) 食べ物・飲み物を	「
「	(訳2) 着物を	「
「	(訳3) 乗り物に	「

▼ 奉る

謙譲語	本動詞	(訳1) 「
補助動詞	(訳) 申し上げる	
「	(訳) 食べ物・飲み物を	「
「	(訳2) 「	「

▼ 参る